

## 鈴鹿市文化会館（三重県鈴鹿市）実施データ

実施団体	公益財団法人鈴鹿市文化振興事業団
実施ホール	鈴鹿市文化会館
担当者	工藤真里奈
派遣期間	下見派遣 平成30年5月15日（火）～5月16日（水） 1回目派遣 平成30年7月26日（木）～7月29日（日） 2回目派遣 平成30年9月6日（木）～9月9日（日）
アーティスト等	アーティスト：福田修志 アシスタント：松本恵、田中俊亮
<p>■下見派遣内容</p> <p>5月15日（火）打合せ（実施プログラムの内容について） 市内視察（文化会館周辺散策）、会場下見（美術工芸室・陶芸室・さつきプラザ）</p> <p>5月16日（水）市内視察（鈴鹿墨見学・伝統産業会館見学等） 打合せ（NPO こどもサポートさんと親子でホール探検について）</p> <p>■1回目派遣内容</p> <p>7月26日（木）鈴鹿墨レクチャー（進誠堂にて鈴鹿墨の使用方法等のレクチャー） 打合せ（栄小学校の校長先生、担任の先生との打合せ）</p> <p>7月27日（金）打合せ（庄内小学校の校長先生、担任の先生との打合せ） 学校職員対象アウトリーチ体験</p> <p>7月28日（土）親子でホール探検①②</p> <p>7月29日（日）フィードバック（1回目派遣実施プログラムについて） 打合せ（2回目派遣実施プログラムの内容について）</p> <p>■2回目派遣内容</p> <p>9月6日（木）打合せ（実施プログラムの準備、当日の流れ確認）</p> <p>9月7日（金）栄小学校アウトリーチ 庄内小学校アウトリーチ 伝える・伝わるワークショップ</p> <p>9月8日（土）スミズミまで楽しむまち歩きワークショップ フィードバック（全体）</p> <p>9月9日（日）フィードバック（全体）</p>	

## スケジュール

派遣回	下見派遣		1回目派遣				2回目派遣			
	5月15日	5月16日	7月26日	7月27日	7月28日	7月29日	9月6日	9月7日	9月8日	9月9日
9:00				庄内小打合せ				栄小学校 アウトリーチ 8:45~10:25		
10:00		市内視察	移動		親子でホール 探検① 10:30~12:00	フィードバック			スミズミまで 楽しむ まち歩きWS前半 10:00~12:30	フィードバック
11:00							打合せ			
12:00	移動						移動			
13:00		会場下見								
14:00		市内視察	鈴鹿墨 レクチャー	アウトリーチ 体験 13:30~15:30	親子でホール 探検② 13:30~15:00		移動	庄内小学校 アウトリーチ 13:50~15:25	スミズミまで楽しむ まち歩きWS後半 13:30~15:00	移動
15:00	打合せ						打合せ			
16:00	市内視察		栄小打合せ	フィードバック					フィードバック	
17:00	会場下見	移動								
18:00										
19:00								伝える・伝わるWS 19:00~21:00		
20:00										
21:00										

## プログラム詳細

### 「学校職員対象演劇アウトリーチ体験」

7月27日（金）13：30～15：30

会場：鈴鹿市文化会館 音楽室

参加者：12名

演劇アウトリーチを実施するにあたり、先生方の理解は必須ということで実施したインリーチ。市内小中学校、教育委員会関係者が集まりました。緊張感を持った会場でしたが、導入のアシスタントお二人による「宝探し」の劇やストレッチ、頭の体操をすることで自然と距離が縮まり、気づけば知っている人も知らない人も全員顔を合わせて笑えるような和やかな雰囲気になっていました。後半は「名前カード」「性格カード」が一人一人に配られ、お話を作る中で「私はおっとりな性格だからこう言うね!」「それいいね!」と、自分の想像力を膨らませ、他者の想像力にも触れることができました。一通りアウトリーチ体験した後は、フィードバックを行いました。「とてもいい経験だと思う」「こども達にも是非体験してほしい」等の感想がでました。また、実施から数週間後に回収したアンケートには「早速クラブでストレッチを活用しています。一緒に参加した先生と未だにあだ名で呼び合っですごく近い存在になりました」と感想をいただきました。



### 「親子でホール探検～ヒミツのお話～」

7月28日（土）①10：30～12：00／②13：30～15：00

会場：鈴鹿市文化会館 けやきホール

参加者：①26名（子供14名大人12名）／②21名（子供11名大人10名）

同日に文化会館全体を使ってこどもが主役の「こどもフェスティバル」を開催し、その中の一つとして親子で楽しめるプログラムを実施しました。まず調光室や舞台裏等、普段入ることのできない場所を探検し、こどもも大人も興味津々でした。一通りホールを探検した後は、福田さんの考えたヒミツのお話を聞き、それぞれが探検した中でお気に入りの場所を選び、実際にお話を作りました。お話を作りながら楽しそうに喋る親子の姿や、親と子が別行動でこどもを心配しながらも自分のお話作りに夢中になっていくお母さんや、心配を余所にお話をどんどん作るこどもたちの姿が見られました。最後にはそれぞれが作った「ヒミツのお話」を発表しました。こども達の想像力豊かなお話で会場が笑顔になったり、大人の知的な面白いお話で笑いに包まれたり、感心の声が聞こえたり、大人もこどもも楽しんでいました。



## プログラム詳細

### 栄小学校アウトリーチ

9月7日（金）8：45～10：25

参加者：38名（3年生）

自分の意見をはきはき言える児童が多く、大変元気の良いクラスでした。その中でバランスストレッチや物語作りは他者の事を考える、話を聞くという所が新鮮そうでした。普段からみんな元気なんだろうと思っていましたが、アウトリーチ後に学校の先生方とお話し、「吃音の児童が楽しんできはきと喋っていた。クラスの中で普段静かな子が発言していたり、いつもの教室内では見ることの出来ない姿が見れた」と先生方にしか分からない嬉しい様子を聴く事ができました。また、実施後に回収したアンケートには「自分たちで劇をまた作りたい」という感想がたくさんありました。



### 庄内小学校アウトリーチ

9月7日（金）13：50～15：25

参加者：30名（5年生11名、6年生19名）

栄小学校と同プログラムでの実施でしたが、学年が上になったことで全く違った色のワークショップになりました。発表された物語の内容は映画でありそうな壮大な内容ができていました。発表の際に「演技をして」という指示はなかったのですが、熱演を見せてくれた児童もいました。違うグループの発表を聞くのも大変楽しんでいました。最後の感想で「普段は皆の前でふざけていて、発表する場ではいつも緊張するけど、今日は皆と一緒に作ったから緊張しなかった」と感想を伝えてくれました。



### 「伝える・伝わるワークショップ～表現とコミュニケーションを考える～」

9月7日（金）19：00～21：00

会場：鈴鹿市文化会館 さつきプラザ

参加者：18名

一般公募で集った参加者は高校生～70代まで幅広い参加がありました。「PTA会長になるからもっとうまく伝えられるようになりたい」「学生時代、演劇部に入っていて講師が演出家で興味を持ちました」等、様々な参加理由がありました。アイスブレイクとしてストレッチやコミュニケーションゲームをしました。緊張感がほぐれた所で「言語」「身体」について考え、どちらかだけで伝えるのは難しいこと、同じ言葉を喋っているのに表情や身体の向きが違うことで伝わり方が違うことなどを参加者で学びました。最後に参加者の感想を聞くと「聞き上手になりたい」「自分の聞く事の弱さが分かった」など伝えることよりも伝わることの難しさを分かった上で、伝わり上手になろうという意識の参加者が多く見られました。



## プログラム詳細

---

「鈴鹿墨×まち歩き スミズミまで楽しむ まち歩きワークショップ」

9月8日（土）10：00～15：00（途中1時間昼食休憩）

会場：鈴鹿市文化会館 美術工芸室・陶芸室

参加者：7名

鈴鹿墨を字を書く以外の方法で活用することで鈴鹿墨の良さを感じ距離を近づけること、まち歩きをすることで改めて自分の住む街のことや人のことを考えるきっかけ作りを目的とし実施しました。前半は、会館内でアイスブレイクをし、ストーリーを見つける練習をした後に、会館周辺をまち歩きしました。街に出て福田さんの目線から「なんでここはこうなってるの？」と疑問が飛び、参加者も改めて見慣れている景色について考えるきっかけになっていました。また、まち歩きをしながら「昔はこうだった」等、参加者同士での会話がはずんでいました。後半は、まち歩きで見つけたストーリーや景色を鈴鹿墨で描きました。墨を磨る動作や墨の香りで会場内一同癒される空間でした。鈴鹿墨の中でも色墨を使った絵は色の違いなど奥深いものでした。最後にストーリーを発表し、「そんなところ見つけられなかった」等、他者の発見や気づきを一緒に楽しみ共感する様子が印象的でした。



### ●この事業への参加動機

(公財) 鈴鹿市文化振興事業団は音楽事業に特化し、「吹奏楽フェスティバル」やさまざまなジャンルを集めた「鈴鹿の街音楽祭」、市内小学5年生を会館に集めて生オケクラシックを提供する「ときめきクラシック」等、次世代へ向けでも音楽事業に特化しています。一方演劇は1年に1回地元のNPO 団体であることもサポート鈴鹿と共催により演劇鑑賞事業をするかしないか、実施するとしても鑑賞型という演劇事業に乏しいところがありました。そんななか地域創造のリージョナルシアター事業をご紹介いただき、演劇ワークショップの存在を知り、まずは演劇ワークショップの需要・効果等を計りたいと思い参加しました。

### ●企画・実施において苦勞した点

実施プログラムを決めることに苦勞しました。全体研修会前に実施したい対象や目的は決めていたのですが、いざ打合せに入り福田さんに「何でそれをしたいの？」と聞かれるとうまく説明することができず言葉が見つかりませんでした。というのは過去の事業報告書を参考にしている、本当に鈴鹿市で必要な事、自分のやりたいことが発見できていませんでした。福田さんや地域創造さんにアイデアやアドバイスをいただきやっとのことで自分の言葉にできました。

スミズミまでまち歩きワークショップの参加者集めに苦勞しました。配布したチラシの内容では絵を描くことが一番わりやすく、直接お誘いした方には「絵が苦手だから…」と言われ内容について詳しく説明しました。アーティストさんからいただいた言葉以外にも、市民性を考慮したキャッチコピーを入れる等工夫が必要でした。

### ●プログラムを実施した成果

新たなネットワークがたくさんできました。また、主管課の文化振興課や教育委員会の方々に参加いただき、評価をいただいたこと、インリーチに参加いただいた先生に「うちの学校にも来てほしい」と言われたことは大変大きな成果です。継続的に実施するにあたって理解者を増やすことができました。鈴鹿墨は今回のワークショップで鈴鹿の誇る伝統工芸品だと実感し、今後もワークショップを展開してもっと広く知れ渡ればと考えています。このように来年度から実施したい事業がたくさん浮かぶようになったことも、自分自身一つの成果だと感じています。

小学校アウトリーチでは、外部からきた講師だからこそ教えられる創造や物の見方があるとフィードバックしました。他のワークショップでも同様で、そういった刺激を提供することで視野、未来が広がり、豊かな街づくりに繋がっていくのではと感じました。

### ●今後の展望

今回の参加動機として演劇ワークショップの需要・効果を計りたいとしておりましたが、需要も効果も抜群でした。今回の実施で小学校アウトリーチは教育委員会、現場の先生方にも大好評でしたので継続していきたいと考えています。何より、鈴鹿市文化振興事業団職員がその効果を目の当たりにし、続けていきたいと話しています。今後も演劇を取り入れたワークショップ等の事業を実施していきたいと思っています。

### 可能性のある一歩

福田 修志

#### 地域と繋がり、応援する

「劇場を訪れる人の幅を増やしたい」という願いや、「いわゆる子育て世代になっている人たちに劇場に来て欲しい」という想いは、どこの劇場にもある悩みのような気がします。鈴鹿市にある鈴鹿市文化振興事業団は、そういった願いや悩みをなんとか解消すべく、今回の事業に正面から一緒に向き合いました。

会場となった鈴鹿市文化会館は、ホールと公民館が一体となっているような施設で、同じ建物にプラネタリウム館があるなど、一昔前だと「なんで劇場と公民館が一緒に…」と思うような施設かもしれませんが、劇場の役割が多様化した現在においては、やり方次第では時代に合っている施設であり、可能性を十分に感じさせてくれる施設でした。

というのも、地域の伝統工芸品である『鈴鹿墨』を応援したいという事業団側の熱意で、まち歩きと絡めたWSを実施したのですが、そのWSを行う上で、あまり利用されなくなったという工芸室が大活躍しました。演劇のWSでも活躍するのですから、美術のWSだと言わずもがな。それどころか、複数のアーティストを掛け合わせたWSなどが企画できたら、とても豊かな時間を創造し、提供することが出来ます。それこそが、地域と繋がり、伝統文化を応援する力になるのです。足し算でなく、かけ算で描いた繋がり、新しいコンテンツを生み出し、伝統文化の魅力を高めることにもきっと繋がるでしょう。

#### アーティストを利用する

これまで多くの市民に『観るためだけの場所』として存在していた劇場が『ワクワクする空間』という印象に変わり、距離感がグッと短くなるために実施した『ホール探検』のWSは、ただのバックステージツアーではなく想像力を用いることで、子供たちはもちろんのこと、大人たちにとっても、劇場に対する親近感を感じ取ってもらったと実感するに十分な笑顔で溢れていました。それこそが、アーティストが関わる意味だと思います。

「役割の多様化」や「交流の場」など、昨今言われている劇場の方向性に合った機能を、実は既に備えていても、上手く使い切れていなかったり、方法を見出すアイデアが浮かばなかったりという劇場があると思いますが、そんな時こそアーティストを使って下さい。丸投げは良くありませんが、行き詰まったり、違う角度の発想が欲しい時こそ、アーティストを利用して欲しいと思うのです。

#### 育てることの大切さ

学校アウトリーチというのも、広がり考えた劇場のミッションとして、とても良いアーティストの使い方です。ただ、学校アウトリーチの場合は、劇場と学校との信頼関係を作る必要があるので、鈴鹿市では教職員対象のWSを実施しました。

これは継続した実施を考えているのであれば、特に有効だと思います。先生方に巻いた種が実るのが、いつになるかは分かりませんが、確実にその種は心に残り、花開きます。限られた人数での実施にはなりますが、そうした小さな積み重ねこそが大切なことで、「千里の道も一歩から」。事業団として進む道をしっかりと定めながら、着実に進んだ最初の一歩は、とても大きな財産として、これからの糧になっていくと信じています。